

日拓の企業理念（七つのSの経営）、企業理念に則した行動規範

第一条 シェアード・バリュー⇩共通の価値観（企業理念）に基づく実践

- 1 「感動」を提供する会社⇩それこそが目指すべき姿（ビジョン）である
- 2 企業の目的は存続する事にある⇩成長（売上規模拡大）より、生存可能な強固な経営基盤を確立する
企業永続には⇩高い目標に挑戦し、完全を追求し、世代を超えて企業を進化し続ける事が不可欠である
- 3 事業の目的は、顧客の要望に応え「顧客を感激させる」⇩顧客を創造し、固定客を維持する経営
お客様に喜ばれる「心」のこもった商品と誠意溢れるサービス、即ち魅力溢れる優れた商品を、より安く、付加価値を提供することにより、商売を円滑に進め、適正な利益を得ること
- 4 ステークホルダー主義⇩顧客、社員、取引先、株主、地域社会などに信頼される、誠実な企業である事

- (1) 法令遵守より最高レベルの倫理を追求し妥協はしない⇩社会の要請に条件をつけて応諾するしなやかさ
社会的公正や人権配慮。
- (2)

- (3) ESG（環境・社会・企業統治）投資⇩脱炭素、二酸化炭素（CO₂）排出量削減⇩資源を大切にし、地球環境の保護と安全の問題、省資源・リサイクル活動の推進を最優先にする⇩自主的、積極的に取り組む。
地域に根ざした企業活動を通じて、より豊かな幸せな社会を追求し、経済・社会の進歩発展に貢献する
- 6 日拓の判断基準は⇩全ての事に関して「社会にとって正しいか、どうか」と「公正であるか、どうか」

第二条 ストラクチャー⇩スピードが全てだ！スピードのある企業しか生き残れない

- 1 小企業精神⇩無借金体質の筋肉質で物事を単純化し機敏に行動する⇩現状・自己否定、現状打破の精神
- 2 小さな（機能する）本社・簡素な組織⇩経営とは基本の徹底と環境の変化に柔軟に対応する即応性なり

第三条 ストラテジー⇩天の時・地の利・人の和⇩時代と運を味方につける

- 1 都心立地型商業不動産開発業⇩自社ビルが利益の柱⇩地域一番店が日拓の流儀⇩一番以外はピリ
- (1) 首都圏の主要駅前の超一等地、(2) 自社所有店舗、(3) 大衆相手に日銭の入る現金商売・現金支払主義
- 2 不動産戦略⇩(1) 将来性（含み資産）、(2) 表面利回り5%、(3) 換金性・転用性、(4) 管理範囲・管理簡単
- 3 ストック事業（土地の含み資産の蓄積）とフロー事業の両輪経営で、ローリスク・ミドルリターン経営

第四条 システム⇩「売る」努力よりも継続的にブランドを創造できる「売れる」仕組みづくり ベスト・プラクティス⇩創造と革新がこれ以上ない最も優れた方法をタテ、ヨコ、算数や他社から学ぶ

第五条 スキル⇩いづれ来る未曾有、想定外の大震災、大恐慌に備えて準備万端整えている事

- 1 企業の良し悪しを測るのは、つまるところ結果（会社の決算書、会社清算価値）である
- 2 心も含めて余裕のある経営⇩過大な借入金を持たず、潤沢な運転資金と借入能力を常に備えて置く事

第六条 経営スタイル⇩自主・独立・自尊の経営⇩本業に専念し、本業を大事にする

- 1 三百年後の未来を志向し、業界で絶対的な競争力のある店舗立地を含めて、ビジネスの全ての面において卓越したマネジメントで、長期安定的に着実に成長するミドルサイズの卓越した堅実な企業を確立する
- 2 無借金体質の株式非上場会社の同族オーナー経営を貫く⇩過大な借入金、多角化、財テクが会社を潰す

第七条 スタッフ⇩従業員は、企業発展の根幹⇩自分の頭で考る力と社会を生き抜く知識（武器）を持つ

- 1 全体最適、一致協力、全部門連動体制⇩専門性を追究し、プロフェッショナルとしての真価を発揮する
- 2 タテ（過去、歴史）、ヨコ（世界の人）、算数（データ、証拠、根拠、事実）という枠組みで考える
- 3 いい人材の条件⇩「IQ」より「EQ」⇩知能指数、頭の良さより心の指数、感情の指数
- 4 登用される社員の七条件⇩(1) コスト意識を持つ、(2) 内外の衆知を結集する、(3) タフな交渉力、(4) 強い責任感を持つ、(5) 言われる前に出来る、(6) きついツメができる、(7) すぐ行動に移せる